

## 志木市特定地域再生計画（素案）に対する意見公募の結果について

### 1 意見公募期間

平成25年8月1日(木) ～ 平成25年 8月30日(金)

### 2 素案の公表場所

市ホームページ、政策推進課、柳瀬川・志木駅前出張所、いろは遊学館、宗岡公民館、宗岡第二公民館、柳瀬川図書館、いろは遊学図書館

### 3 意見募集状況

人 数		意 見 件 数
個 人	団 体	
3人	0人	3件

区 分	
◎	意見を反映し、修正・加除（一部を含む）を行ったもの
○	原案のとおりとするもの
△	その他（素案に直接関連のない内容等）

		公募意見概要	公募意見に対する市の考え方	区 分
1	全般	<p>街づくりの目標、実現のための施策等は再生計画としては良くできていると思います。やはり、ポイントは少子高齢化に対応した良好な環境づくりを志木市の特徴を生かしながら、市民、行政、学校、その他関連組織が一体化となって、特に市民、市民組織の参加を優先して企画し、実現しなければと思います。行政組織の横断的な議論、既得権にとらわれない新発想の採用、社会福祉協議会や民生委員そして町内会の意見重視、教育・医療現場の状況等を常に頭に入れて行動する必要があります。</p> <p>優秀な人づくりが必要です。人口の増加に知恵を集約するべきです。</p> <p>教育を基本に子育てへの取り組みを志木市の大きな魅力とすべきだと思います。コンパクトな志木市は、医療・福祉において予防面の行動が最適であり、市民力を生かしながら「お互い様」の優しい街づくりに徹するべきだと思います。</p> <p>再生計画の市民への認知が重要です。予算計上も自信をもって公開すべきです。</p> <p>医療・福祉・子育て等暮らしを支える公共サービスの充実、環境に負荷をかけない街づくり、市民参加の拡大等の視点は重要であり、スピード感をもって実現しなければなりません。それには、市民、全ての組織に常に計画内容・計画までのプロセスの説明と前向きな意見交換の機会を多く設ける必要があります。顔と顔との参加であり、予算への計上数字も納得感があるはず</p> <p>志木市のすばらしさ、1) 歩く事のすばらしさ、2) 人との出会い・挨拶・接触・会話のすばらしさ、3) 何でも継続させる事のすばらしさ。4) 支える事、支えられる事のすばらしさ。以上</p>	<p>本計画に基づき、都市政策担当、コミュニティ担当、健康づくり・福祉担当など庁内横断的な検討体制と市民力を生かした地域住民、市民団体、民生委員など市民と行政との連携体制を築くことで、地域における少子高齢化の進展に対応した良好な居住環境の形成を進めてまいります。</p>	○

2	<p>全般</p> <p>【志木駅前出張所、柳瀬川駅前出張所の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な提出書類、申込み用紙等を常時置くように充実させる</li> <li>・高齢化で高齢の方々は志木市役所まで行くのにバス等とても大変！！大変苦勞！！</li> <li>・出張所に提出書類、申込み用紙等を常時置くよう改善・充実させることが（素案）に書いていない。</li> <li>・最近もある申込書類（用紙等）がなかったことがある。</li> <li>・人員は増員しなくて良い。</li> </ul>	<p>いただきましたご意見につきましては、素案とは直接関係がございませんが、今後、志木駅前出張所、柳瀬川駅前出張所の改善・充実については、5つの行動指針のひとつであります「市民の役にたつ所『市役所』への改革」に基づき取り組んでまいります。</p>	△
3	<p>全般</p> <p>1 全体としてよくまとまったよい案です。実現を期待しています</p> <p>2 特定地域再生計画とは内閣総理大臣に認定を申請する必要があるようですが可能性の有無によってこの計画は変わるのでしょうか（疑問）</p> <p>3 実現のための施策についてはよいと思います</p> <p>4 施策の評価の評価指標は大変面白い案だと思います</p> <p>5 実現に向けての体制づくり、財源確保は認定されてから具体的になるものと思います。</p>	<p>2の質問について</p> <p>内閣総理大臣は、認定基準に適合しているものと認められるときに認定を行うものとされておりまして、市は、素案を正式な計画に決定する際には、このような頂きましたご意見や国の新制度等の状況を踏まえ、必要な変更・修正を加えながら適合する計画を策定することとなります。</p> <p>特定地域再生計画は、特定の地域の政策課題（地域における少子高齢化の進展に対応した良好な居住環境の形成）の解決に資する計画です。「市民を健康、まちを健康、ふれあいあふれるまち」をコンセプトに子どもから高齢者まで市民だれもが健康に生活できるよう、まちを健康にし、ふれあいの創出と夢を語れるまちづくりを推進していく方向性は変わりません。</p>	○